

園だより夏休み

主はわたしを草原の原に休ませ 憩いの水のほとりに伴い

魂を生き返らせてくださる。

詩篇 23 篇 2 節～ 3 節

例年より早くに明けた梅雨。梅雨の名残の様な雨の日もありましたが、夏らしい暑い日々が多かった7月となりました。子どもたちにとっては季節ならではのプール遊び・水遊びを存分に楽しめた1学期最後のひと月であったと思います。

水が大好きな子どもたち、プールに入る日も入らない日も水着に着替え、様々な心もちと共に遊びに没頭していました。また、水着に着替えず園庭中に広がる水を避け過ごしている子どもたちもいました。水着に着替えない理由はそれぞれですが、そのときの心もちと共に遊び込んでいました。3ヶ月余りを過ごした1学期の終了を迎えた今、子どもたちそれぞれの想いを大切に過ごした故の成長の姿があります。改めて幼稚園という小さな社会で繰り返される、安定した流れの毎日を個々のペースで心地良く感じながら過ごす日々の大切さを実感しています。

子どもたちは安心の環境にそれぞれその日その日の心もちと共に登園してきました。保育者たちは朝の挨拶のとき、一人ひとりの心もちを手のぬくもり・表情・全身の様子などから受け止めました。(7月から手を繋いでのご挨拶が復活できたこと本当に感謝でした)そしてそこから始まるかけがえのない一日を、園だより5月でお伝えした倉橋先生がおっしゃられる子どもたちの「極めてかすかに、極めて短い心もち」を見落とさぬよう心を配り共に過ごしました。子どもたちの豊かで様々な心もち、心地よさを共感し合える嬉しい心もちが沢山ありました。時に、自身でさえ受け止め難く感じているのでは、と思われる心もちもありました。「その子の今の心もちのみに、今のその子どもがある」、保育者たちは「今のその子ども」と向き合うことを望み、繰り返される園の日常に溢れるどの心もちをも大切に思い過ごしました。子どもたちは取り巻く人々(友だち・保育者、保護者の皆様等)の心もちとの深い心の交わりにより、自分の心もちが大事にされていること、そして自分以外の心もちの大切さもそれぞれに感じ取っています。その想いが織りなされる「とき」の中で心の育みが成されました。1学期の日々が心の交わりを豊かに感じる「とき」としての日々であったことに感謝です。保護者の皆様、今学期も多くのご理解とご協力、ありがとうございました。

コロナの感染状況は留まることの無い夏休みとなることでしょうか。個々に感染対策を徹底し元気でお過ごしになられますことお祈りいたします。

園長 駿河 幸子